

木造高校学級数減見直しを

野呂^{のろつかさ}司^さ議長、佐々木^{ささき}直光^{なおみつ}副議長、成田^{なりた}克子^{かつこ}教育民生常任委員長は倉光^{くらみつひろあき}弘昭^か市長、葛西^{かさい}岨^い輔^{すけ}教育長とともに県、県教育委員会、県議会に対し、青森県立木造高等学校の学級数維持を要望しました。要望に対し、和嶋^{わじま}延寿^{のぶとし}県教育長は、「子どもたちが減っている状況を踏まえながら学校の維持を考えなければならない。地区懇談会においては丁寧な説明をして理解を得られるよう努力していく」と回答しました。また、三橋^{みつはしかずみ}一三^{かずみ}県議会議長からは、「地区懇談会では丁寧に議論する必要があり、県教育委員会はしっかり地域の声を聴かなければならない。今回の計画案については多くの議員が疑問を持っているため、活発な議論が行われると思っている。その経緯を見ながら議会として対応していく」と回答がありました。

木造高校の学級数減は地域全体の問題でもあるため、市議会として今後の動向に注視しながら積極的に取り組んでまいります。



要望書を渡す野呂議長



学級維持を訴えました



要望書手交
左から三橋県議長、野呂市長

議会改革特別委員会 10月12日

議会のICT化に向けタブレット端末の操作研修

これまで、議会におけるタブレット端末導入について費用対効果の検証や導入済み議会の視察を実施し、協議・検討してきた。今回、自治体 No.1 のシェアを誇るペーパーレス議会システム「SideBooks」を開発した東京インタープレイ株式会社によるタブレット端末・議会システムの操作説明をリモートで受けたほか、タブレット端末の機種や通信方式、画面のサイズなど機能性についても説明を受けた。

- ◎ SideBooks は PDF の閲覧アプリで、クラウド本棚は議会・会議資料を共有でき、ペーパーレス議会を可能とするほか、過去資料の検索が短時間でできる。
- ◎ 導入自治体の 90%以上が簡単に操作できる iPad を採用。
- ◎ 通信事業者として、導入自治体の 65%が通信範囲の安定性とサポートの手厚い株式会社 NTT ドコモを採用。



来年度からの機器導入に向けて話し合いました

これらの説明を受けた後、議会側と理事者側を含めたタブレット端末導入に向け、機種などを選定した。今後、新年度の予算要求するほか、タブレット端末の運用規定の整備や完全ペーパーレス化の時期についても協議していく計画である。